

第6学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

令和8年2月18日5校時

大田区立高畑小学校

第6学年 4学級112名

担任

1 単元名 「水害からくらしを守る～六郷だからできること～」【B 地域の創生】(35時間扱い)

2 単元目標

- ・大田区や六郷地区で防災対策を進めている人々との交流や情報収集を通して、この地域の水害の危険性を理解するとともに、地域の関係機関の人々が水害への様々な対処をしてきたことや、今後想定される水害に対して様々な備えをしていることに気付くことができる。【知識・技能】
- ・収集した情報を基に水害から人々を守る活動や提案を考えるとともに、地域や保護者に向けて発信する方法を工夫し、より良いものにしようと試行錯誤することができる。【思考力・判断力・表現力】
- ・地域の課題や人々の取組を自分事として捉え、主体的に学習に取り組むとともに、学んだことを基に地域社会の一員として自分にできることを考え、協力してより良い社会にしていこうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

学習課程	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
コンセプト	① 関係機関の人々から話を聞いて、水害の実際や備え、対処に関する知識を身に付けている。	① 関連機関の人々の講話の内容や願いを基に情報を整理・分析し、地域の現状を把握している。	① 関係機関の方の話を聞いたり、実際に体験したりしたことから、地域や保護者に伝えたことをすすんで考えようとしている。
デザイン	② 必要な情報を収集したり、得られた情報を活用したりする技能を身に付けている。	② 地域、保護者に伝える内容としてどのような内容・手法がいいのかを考えている。	② 分担された役割や全体の計画を意識しながら、地域や保護者の防災意識の啓発のためにできることを考え、粘り強く取り組もうとしている。
クリエーション	③ 伝えたい情報を分かりやすく伝えるために必要な技能を身に付けている。	③ 地域や保護者に伝わるように発信内容をまとめるとともに、フィードバックを活かしながら、よりよい発信ができるように試行錯誤をして取り組んでいる。	③ 友達からの改善案や関係機関の方からのフィードバックを受け止め、必要に応じて内容の改善に取り組もうとしている。
ICT活用	ICT を活用した情報の蓄積や共有、スライド作成に関する知識・技能を身に付けている。	地域や保護者への防災意識の啓発を意識して、調査や発信に際して ICT を有効に活用している。	協働的な学習場面や作品の作成、改善の場面で、ICT を効果的に活用しようとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

自分の住む地域に関心を持ち、水害に備えてきた人々の取組を知って、同じ地域に住む一員としてできることを意欲的に考える授業を目指している。本地域は多摩川に隣接し、大雨や台風による川の氾濫に備えて多くの設備が整えられ、地域の人々の努力が重ねられている地域である。学校横の公園には、自由に持ち出すことができる土嚢が収納されている。また、学区域に隣接する多摩川河川敷にはカメラが複数設置され、ホームページから川の様子をリアルタイムで視聴することができる。このような環境にあるが、児童は特に意識を向けることなく、設置自体に気が付いていない児童も多い。地域の人々の活動や思いを知り、水害の被害や水害への備えについて多くの調査・体験をすることで、徐々に自分事として捉え直し、地域の方や保護者への防災意識の啓発も含めて主体的に行動できるようになってほしい。また、地域の設備や働く人々に目を向け、自分自身も主体的に関わろうとする中で、今後も地域社会に貢献していくことができる児童を育てていきたい。

(2) 授業パートナーの連携

団体名	依頼内容	資質能力の育成に どんなことが期待できるか
・大田区市民防災研究所 ・本所防災館 ・多摩川緑地管理事務所 ・大田区防災危機管理課	・地域の特性や問題提起の講話 ・水害対策施設の説明 ・児童の発表へのフィードバックや感想 ・防災備品の一覧の提示 ・防災備品の貸出	・自分たちの住んでいる地域についての話を聞くことで、地域の一員としてどのように防災に関わることができるのか、より実感を伴う課題意識をもつことができる。 ・作成したもののフィードバックをいただくことで、問題解決学習の質を高め、問題解決能力を高めることができる。

(3) 学習過程

「実社会で活躍する人との出会い」では、大田区の市民水害研究所の方から、六郷地区で想定される水害についての話をしていただいた。この際、地域や保護者への防災意識の啓発の依頼を受けることで、自分たちの地域の特徴に気付き、水害の対策が必要であることを意識できるようにした。

「コンセプト」では、様々な場を生かして調査・体験を実施し、水害の被害や対策の具体について気が付けるようにした。実体験を重視することで実感を伴う理解を目指すとともに、自分たちの地域や学校の施設を取り上げ、地域の人々の努力や工夫を伝えていこうとする思いが高まるようにした。

「デザイン」では、集めた知識や体験を基に、何を、どのような手段で地域や保護者に伝えていくかを考えた。自分たちの音声や活動の写真を生かしたスライドづくりや、手元に置いて読み返してもらうことができるパンフレット、身近に置いて活用することで防災意識を高めてもらえる標語クリップなど、目的に応じた発信方法を選んだ。各グループに分かれて情報を収集し、協働的な学習を通して、探究する力を高めていけるよう計画した。

「クリエイション」では、分担した発表方法に沿って、集めた情報を使ってまとめている。どうすれば相手に伝わりやすくなるかを考え、工夫して表現する力を身に付けることを目指す。また、作成したものについて、児童同士で改善案をアドバイスし合ったり、大田区防災危機管理課の方からのフィードバックをいただいたりして、さらに改善していく。

(4) 本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数

教科等名		本単元で扱う内容	授業時数
国語	書くこと	・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	9
	話すこと・聞くこと	・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	
社会	公民	・政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。	4
算数	データの活用	・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察すること。	3
理科	生命・地球	・生物と環境について追究する中で、生物と環境との関わりについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。	4
総合		・地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。	15

5 児童の実態

本校の学区域は多摩川河川敷が生活圏にあり、大雨の時には川が堤防付近まで広がって、河川敷のグラウンド等が水に浸る光景が見られる地域である。しかし、水害についての知識を確認したところ、視界には入っているはずなのに、防災のカメラや土嚢の存在に気が付いている児童は少数であり、現実感を伴った防災意識にまでは至っていないことが分かった。そこで、本単元では自分たちの地域の特徴に気付くとともに、地域の人々が防災のための工夫や努力を重ねていることに目を向けることができる単元構成を計画した。

現地におもむいて人々の工夫や努力によって成り立っている施設等を見学したり、災害に関する体験を行ったりと、実感を得られる活動を重視した。また、授業パートナーの方からの話の際にも自分が住む家のハザードマップの確認をしたり、保護者が自宅の窓から撮影した氾濫直前の川の様子を紹介したりと、自分たちの暮らしの身近に想定できるようにした。これらの実感を伴った理解の上で「六郷だからできること」を考えることで、地域に住む人々にも災害に対する意識を高めてもらえることを目的とし、啓発活動を意欲的に計画・実践できると考えた。

6 指導の手だて

(1) 多様な体験活動の実施

本単元では、既習の学習である川の氾濫についての知識と、実際に自分たちが住んでいる六郷地域の特徴や関連機関の人々の努力等を結び付け、その地域に住む自分たちにもできることを考えた。そのため、実際に暴風雨を体験したり、地域の設備を見学したり、働く人々の思いを知ったりすることを重視した活動を実施した。これにより、より実感の伴った理解につなげることに加えて、地域や保護者への発信の際に、説得力のある内容にしていくことができるようにした。

① おおた防災教室（風水害編）

大田区市民防災研究所の方を講師として、お話を伺った。六郷地区のハザードマップを見たり、想定される水害について話を聞いたり、保護者や地域への防災意識の啓発を依頼されたりすることで、自分たちに直接関わる話として受け止められるようにした。また、調査して発信することが地域の人々の役にも立つことを知って、主体的に活動に取り組む態度につながられるようにした。

② 本所防災館の暴風雨・都市型水害体験

実際に暴風雨を体験できる施設を訪れ、強く感じる雨風や、20cm 程度でも開けるのが困難になるドアなど、疑似体験をすることで危機感をもって想像できるようにした。また、元消防官である施設の方の話なども聞いて、学習内容の理解を深め、防災の備えや避難行動の重要性を知ることができるようにした。

③ 多摩川緑地管理事務所の講話・設備見学

児童が日常的に訪れている多摩川河川敷の安全管理を行っている管理事務所である。常時、川の様子を監視し、増水が想定されるたびに設備の撤去・補強したり、実際の被害からの復旧を手掛けたりしている。管理事務所の方の実体験を聞くことで、実際の活動内容に加えて、地域住民の安全を願う事務所の方の思いを知ることができるようにした。（管理事務所の方へは、担任が直接事務所に伺い、話を聞いたり写真資料を閲覧したりした。聞いた話は資料とともに、担任からの講話を行った。）

また、河川敷の設備を現地に行き観察し、トイレやベンチ、土木作業機器などを実際に見ることで、備えの実態を知ることができるようにした。

④ 簡易ベッド設置体験

大田区防災危機管理課と協力し、段ボールベッドを借りて、設置体験を行った。コンパクトに保管・運送が可能で、児童の手でも容易に組み立てられることを実感することができた。また、普段は存在も意識していなかった自校の備蓄倉庫内に入って備蓄物品を目にすることで、災害時のために多くの備えがなされていることを知ることができた。

(2) 授業パートナーとの事前打合せの実施

各授業パートナーと以下のように打合せを行い、児童の意識の向上につながる授業準備をした。

[大田区防災危機管理課]

2025年5月下旬：「おおたの未来づくり」について説明。授業パートナーとして連携することを依頼
「水害について」「六郷地区・高畑小学校付近の防災課題」についての講話を依頼
児童に「保護者・地域への防災(水害)意識の啓発」の依頼をしてもらうようお願い

7月下旬：「東京マイ・タイムライン」の冊子の配送を依頼

8月下旬：「東京マイ・タイムライン」の冊子を全員分配送

11月上旬：防災設備（段ボールベッド・テントなど）の貸し出し依頼

2026年1月上旬：児童の成果物に対してのフィードバックを依頼

1月中旬：フィードバックをしていただく授業の流れを打合わせ

2月上旬：児童の成果物を送付。フィードバックの内容について打合せ

2月下旬：高畑小学校に来校し、児童のプレゼンテーションへのフィードバックをいただく。

[大田区市民防災研究所] (大田区防災危機管理課の紹介)

2025年6月上旬:『おおた防災教室』実施に向けた打合せ

7月上旬:『おおた防災教室』実施

児童に「保護者・地域への水害意識の啓発」の依頼をしてもらう

7月下旬:「東京マイ・タイムライン」について相談

[本所防災館]

2025年6月下旬:防災体験の申し込み。体験に向けた打合せ

7月下旬:本所防災館の現地踏査。防災体験に向けた打合せ

[多摩川緑地管理事務所]

2025年8月下旬:多摩川が氾濫した時の様子や、水害対策・復旧についての話聞いた。

(10月下旬:いただいた写真を活用しながら、教えていただいた話を見童に伝えた。)

(3) ICT等の活用

- ・オクリンクプラス…体験や調査の内容や感想を残したり、全体で共有したりする際に活用
- ・Google スライド…水害について、避難所についてのスライドを作成・音声を添付
- ・3Dプリンター…標語クリップを作成

7 指導計画

時	学習過程	◆評価規準【観点】(方法)
1 6 時	<p>○オリエンテーション</p> <p>・6年生のおおたの未来づくりの学習とはどんなことをしていくのか、学習の見通しをもつ。</p> <p>★教科書を見たり、他校の実践例を紹介したりして、新しい教科書に向かう意欲を高められるようにする。</p> <p>○「おおた防災教室」での講話を受けて、保護者や地域への防災意識の啓発に意欲をもつ。</p> <p>・大田区の市民防災研究所の方から、「おおた防災教室（風水害編）」として講演を受け、保護者や地域への防災意識の啓発の依頼を受ける。</p> <p>・自分たちの住んでいる地域の特徴を確認して、水害の備えに意識を向けるきっかけとする。</p> <p>★自分たちの地域のハザードマップを実際に確認したり、どのような水害が起こるのかを聞いたりすることで、水害が実際に起こりうることを想定できるようにする。</p>	<p>【知】① (オクリンクの内容)</p> <p>【思】① (オクリンクの内容)</p> <p>【主】① (オクリンクの内容)</p>

		<p>○水害による一般的な被害や災害時の対策について体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨田区本所防災館で暴風雨体験・都市型水害体験を実施する。 ・西六郷・高畑町会主催の避難訓練に参加をし、消火訓練やバケツリレー、傷病者の手当体験を行う。(希望者のみ参加) <p>★体験後に、自分の生活の中だったらどのような危険がありうるのか、誰とどのように行動するのかなどを想像することで、実際の生活と結び付けて考えられるようにする。</p> <p>○川の氾濫について、どのような被害があるのか、どのような対策が考えられるのかなどを調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川緑地管理事務所の方からの情報を聞き、多摩川の氾濫対策と復旧の話や、設備や機器について知る。 ・2019年の多摩川氾濫の動画(保護者提供の動画)を見て、当時の様子を知る。 ・学区内の公園や多摩川沿いの水害対策設備にはどのようなものがあるのか、現地に赴いて実地調査を行う。 ・世界の中での水害のニュースを調べ、当時の写真や様子などをまとめる。 <p>★実際の生活の場である公園や多摩川河川敷の水害対策設備を見学することで、日常の中に今までも、水害対策がなされていたことに気付けるようにする。</p> <p>○避難所の設営について、どのような準備がなされているのか、どのような活動があるかを調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高畑小の備蓄倉庫を見学し、備蓄されているものをまとめる。 ・実際の避難所の写真を見て、どのような活動がなされているかを調べる。 ・避難所で活用される段ボールベッドの設置体験として、大田区の防災課から借りたベッドを組み立て、実際に横になる。 ・マイタイムラインを活用し、水害が発生したときには自分の家庭ではどのような避難を実施するかを想定して記す。 <p>★自校の備蓄を知ったり、自分の家庭の避難計画を立てたりすることで、自分たちが行動するとしたらという想定をもてるようにする。</p>	
17 く 22	デ ザ イ ン	<p>○地域や保護者への防災意識の啓発として、自分たちには何ができるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を生かし、音声付きスライドの作成、パンフレットの作成、標語の作成を発表方法とし、分担する。 	<p>【主】②(観察)</p> <p>【思】②(発言)</p> <p>【知】②(作成物)</p>

		○地域や保護者に伝えるにあたって、必要な情報が他にないかを考えて調査をしたり、今までの記録を振り返ったりする。	
23 く 35 エイ ション （ 本 時 ）	ク リ エ イ シ ョ ン	<p>○分担された内容について、グループごとにどのようなことをまとめればよいかを考え、以下のものを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害スライド・避難所スライド・パンフレット・標語クリップ <p>○作成したものについて、お互いに見合っ、よりよくするにはどうすればよいかを考え、改善案を出し合う。</p> <p>○改善案を受けて修正する。</p> <p>○作成したものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループが作成したものを、学級内で共有する。 ・大田区防災危機管理課の方からフィードバックをいただく。 <p>○フィードバックを受けて修正する。</p> <p>○完成したものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害スライド・避難所スライドをホームページに掲載する。また、学校内で視聴する。 ・パンフレット・標語クリップを校内で配布する。 <p>○配布されたもの、視聴したもの等について、感想をもらい、課題点を考える。</p> <p>○課題点をまとめて、次年度の6年生に引き継いでいけるようにする。</p>	<p>【知】③（発表）</p> <p>【主】③（観察）</p> <p>【思】③（観察）</p>

8 本時の指導（全 35 時間中の第 30 時） 1・3 組

(1) 目標

水害や避難所に関するプレゼンテーションについて、大田区防災危機管理課の方からのフィードバックを生かし、よりよい発信内容に修正することができる。

(2) 展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◆評価規準【観点】(方法) ★指導の手だて ※指導上の留意点
導 入	○本時の学習活動の流れを確認する。 ○本時のめあてを確認する。 大田区防災危機管理課の方からのフィードバックを生かし、発信内容を修正しよう。	
展 開	○グループごとにまとめた内容を発表し、大田区防災危機管理課の方からフィードバックをいただく。 ① 水害スライド (6分) →防災課の方からのフィードバック ② 避難所スライド (6分) →防災課の方からのフィードバック ③ パンフレット (2分) →防災課の方からのフィードバック ④ 標語クリップ (1分) →防災課の方からのフィードバック ○フィードバックを生かし、内容を修正する。 ・間違いを修正する。 ・内容の過不足を修正する。 ・情報の必要性について考え、修正する。	★「間違えている表現はないか」「より分かりやすくするためには、どんな工夫ができるか」「追加で伝えるべき内容はないか」といった視点でフィードバックをいただく。 ★フィードバックを受けることで、よりよい発信内容に修正できるようにする。 ◆フィードバックを生かしながら、よりよい発信ができるように試行錯誤をして取り組んでいる。【思】③（話し合い活動の観察） ★見た目の表現の工夫に偏らないようにする。
振 り 返 り	○振り返りを行う。	★大田区防災危機管理課の方からフィードバックを受けて、内容をどのように見直したかを振り返らせる。

9 本時の指導（全 35 時間中の第 31 時） 2・4 組

(1) 目標

水害や避難所に関するプレゼンテーションについて、大田区防災危機管理課の方からのフィードバックを生かし、よりよい発信内容に修正することができる。

(2) 展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】(方法) ★指導の手だて ※指導上の留意点
導 入	○本時の学習活動の流れを確認する。 ○本時のめあてを確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 大田区防災危機管理課の方からのフィードバックを生かして、 修正した発信内容を発表しよう。 </div>	
展 開	○フィードバックを生かし、内容を修正する。 (前時の修正作業の続き) ・間違いを修正する。 ・内容の過不足を修正する。 ・情報の必要性について考え、修正する。 ○グループごとに修正した内容を発表する。 ① 水害スライド (6分) →防災課の方からのコメント ② 避難所スライド (6分) →防災課の方からのコメント ③ パンフレット (2分) →防災課の方からのコメント ④ 標語クリップ (1分) →防災課の方からのコメント	★事前に関目を通しておいてもらったプレゼンテーション資料をもとに、フィードバックをいただく。フィードバックは、前時に児童へ伝えている。 ◆フィードバックを生かしながら、よりよい発信ができるように試行錯誤をして取り組んでいる。【思】③(話し合い活動の観察) ★発信内容や取り組む姿勢に対する称賛のお言葉をいただくことで、これまでの取組を価値付けていただく。 ★見た目の表現の工夫に偏らないようにする。
振 り 返 り	○振り返りを行う。	★大田区防災危機管理課の方のフィードバックを受けて、内容をどのように見直したかを振り返らせる。コメントをいただき、どう感じたのか振り返らせる。